

◆主催者挨拶

森 まさこ

(内閣府特命担当大臣(少子化対策担当))

少子化対策担当大臣の森まさこでございます。子ども・子育て支援新制度フォーラムの開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

私は、少子化対策担当大臣という役職に加えまして、新しく女性活力・子育て支援担当大臣という職も拝命いたしました。これは、安倍内閣においては、女性が活躍をし、子どもを産み育てやすい国を作っていくことも重要な使命であるということの表れです。

子育てをめぐる環境は大変厳しいと言わざるを得ません。待機児童は依然として2万人を超え、先日も都内の各所において保育園の入所をめぐるお母さん方の悲痛な叫びの声が挙げられました。

そのような声に行政としてどう対応していくか、これはまさに待ったなしの課題です。安心して子どもを産み育て、さらに仕事と家庭を形成し、子育てに伴う喜びを実感できると同時に、子どもたちにとってもより良い社会を実現するため、総合的な子育て施策を推進することが重要と考えております。私も働きながら、小学生と中学生の二人の子育てをしております。毎朝お弁当を作り、朝ご飯を食べさせて学校に送り出してから閣議に出るという毎日を過ごしております。一時期は、専業主婦としての時期もございました。そのときの家事をしながらの子育てでもまた大変なことだと理解しているつもりです。

もちろん、子育ては大変なことばかりではなく、純粋に子どもはかわいいですし、子育てというものは親も成長していける、また社会にとっても重要なことであります。幅広い世代の皆さまに子育ての素晴らしさ、子育てを応援していくことの重要性を認識していただき、そして、ご理解いただくような取り組みを進めていきたいと思っております。

さて、新しい子ども・子育て支援新制度については、関連3法が成立いたしました。新制度は質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供や、保育の量的拡大による待機児童の解消、地域の子ども・子育て支援の充実を進めていくものです。政府においては、早ければ27年4月の本格施行に向け準備を進めておりますが、その際、この制度のためにしっかりと予算を確保することが特に重要であると考えております。昨年の国会審議の際には、消費税を上げさせていただき、その中から7,000億円を充てることとなりましたけれども、私としても必要な財源の確保に全力を投じてまいりたいと思っております。

また、この新制度は、子育てに夢を持ち、子育ての素晴らしさを感じ、そして子どもを安心して産み育てることのできる社会の実現に向けた大きな一歩であると考えております。

ただ、一方では新制度について、まだ十分に国民に周知をされていないと考えております。今後積極的に広報をまいりますが、その皮切りといたしまして、本日のこのフォーラムを開催いたしました。皆さまが新制度に関心や理解を深めていただく1つの機会となればうれしく思っております。また、来月には、内閣府に「子ども・子育て会議」を設置いたします。施行に向けた本格的な検討を進めてまいりますので、ぜひ見守っていただきたいと思います。

また、明日は東日本大震災から2年となる3月11日です。私は福島県の出身でございまして、福島県をはじめとした原発事故の被害地域を含め、被災地の子育ては今なお困難な環境にあります。被災地域で安心して子育てをしていただくために政府が一丸となって取り組むため、「被災地子ども・子育て懇談会」を開催したいと思っております。

私は、引き続き子ども・子育てをめぐる課題に全力で取り組んでまいります。本日、お忙しい中ご参加いただきました皆さまに心から御礼を申し上げ、引き続き取り組みへのご理解、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。本日の冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。